

第22回岐阜県国保地域医療学会

地域医療を守っていくために
多職種連携からみた地域医療の展望

11月26日(日)、OKBふれあい会館において開催しました。今学会は、地域医療及び地域包括ケアの実践の方途を探究するとともに、関係者の相互理解と研鑽を図るために、「地域医療を守っていくために」多職種連携からみた地域医療の展望」をテーマとして、研究発表、特別講演、シンポジウムを展開し、国保診療施設職員及び関係者等、249人の出席がありました。

開会式では、廣瀬英生学会長(県北西部地域医療センター国保和良診療所長)より開会あいさつ、岐阜県国保診療施設協議会の黒木嘉人会長(国保飛騨市民病院長)と本会の小川敏理事長(大垣市長)が主催者あいさつを述べられました。

続いて、来賓を代表して岐阜県健康福祉部の森岡久尚部長よりあいさつがあり、ご臨席いただいた岐阜県国保診療施設開設者協議会の日置敏明会長(郡上市長)と、岐阜県市町村保健活動推進協議会保健師部会の高木千春部会長(海津市長)の紹介がありました。

研究発表は、3会場に分かれて国保診療施設の医師、看護師、市町村保健師等から日頃の研究や活動結果

などに関する47演題の発表が行われ、各会場では聴講者から活発な質疑が出るなど熱気に包まれていました。

午後の特別講演は、宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座教授の吉村学氏より、「みんなでつくり育てる地域医療—多職種連携の視点から—」と題し、宮崎県における「こちやまぜ師養成プロジェクト」など、みんなでつくり育てる地域医療の取り組みの状況について紹介されました。

その中で、「地域に暮らす住民や患者さんたちとそれを支えるスタッフの方々や、次世代を担っていく学生たちがワクワクするような地域医療ができるような仕組みを作りたい。そして私と同じような知識、価値観

を持った人を育て、次世代に伝えていきたい。そのためには、医療従事者と住民、行政が三位一体になって、担当する地域の限られた医療資源や資金、時間等を最大限に有効活用し、継続的に包括的な医療

を展開していくことが重要である。地域で医療従事者を育て、教育することで地域医療を守る事が可能であり、これこそが地域医療の鍵である」と述べられました。

次に、「地域(地元・生活の場)の医療を守っていくために」をテーマにシンポジウムが行



理事長 小川敏



学会長 廣瀬英生



岐阜県健康福祉部
部長 森岡久尚



岐阜県国保診療施設協議会
会長 黒木嘉人



われ、市民・医療機関・行政が一体となった取り組みや、診療所を継続するための人材確保、事業所連携を通じた顔の見えるネットワーク作り、医療機関と連携した認知症対策など、それぞれの立場から地域医療の存続に向けた取り組みの発表があり、特別発言者の吉村教授からは各発言者に対して助言がありました。

続いて、午前の研究発表の中から4人の優秀研究発表者が選ばれ、学会長から表彰状が授与されました。

その後の閉会式では、次年度の第23回岐阜県国保地域医療学会長の北川浩司東白川村国保診療所長から開催に向けたあいさつが行われ、最後に島崎副学会長(国保関ヶ原診療所長)の閉会あいさつで全日程を終了しました。



副学会長 島崎信



次期学会長
北川浩司

<特別講演>

- 演題 「みんなでつくり育てる地域医療 — 多職種連携の視点から —」
- 講師 宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座教授 吉村 学
- 司会者 第22回岐阜県国保地域医療学会長 廣瀬 英生



吉村教授

<シンポジウム>

- テーマ 「地域(地元・生活の場)の医療を守っていくために」
- 司会者 岐阜県国民健康保険診療施設協議会長 黒木 嘉人
第22回岐阜県国保地域医療学会副会長 島崎 信
- 特別発言者 宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座教授 吉村 学
- 発言者 郡上市長 日置 敏明
高山市国保高根診療所長 川尻 宏昭
いきいきネットワーク研究会世話人代表 向 晃良
有限会社耕グループ「くわのみ」代表取締役 繁澤 正彦
揖斐川町福祉課 包括支援センター保健師 高橋 真紀



発言者



<優秀研究発表者>

- 最優秀 「村外の家族も一緒にみまもりのわ！」
東白川村国保診療所 保健福祉部門・東白川村地域包括支援センター保健師 桂川 のぞみ 氏
- 優秀 「往復はがきを利用した特定健診受診率向上への取り組み」
県北西部地域医療センター国保白鳥病院 保健師 中嶋 まみ 氏
- 「高齢者の誤嚥性肺炎診療における完全側臥位法の有用性」
国保飛騨市民病院 理学療法士 牛丸 航希 氏
- 「書字障害への運動療法—理学療法士にできること—」
国保関ヶ原診療所 理学療法士 野村 健人 氏

